

# 北海道芸術デザイン専門学校 教科目概要

一般課程 総合デザイン造形科(夜間2年制)

## 絵画芸術専攻

※2016年度実績

共通教科目	概要	1年次	2年次
就職講座Ⅰ	就職を前提とした本校での学校生活の過ごし方や、学習姿勢、社会人になるための基本を学ぶ。ビジネス能力検定ジョブパス対応。	○	
一般教養(業界研究)	デザイン業界の現状と、自分の適性をどう活かしていくか、目標を立てるための講座。	○	
デザイン概論	デザインの成り立ち・歴史と、現代における役割を踏まえ、多様化されるデザインの知識を学ぶ。	○	
デッサンⅠ	対象を観察し正確なフォルムを把握する力を身につける。立体感・空間感の表現を理論的にふまえて演習する。	○	
Illustrator基礎	コンピューターのソフトIllustratorを使用し、基本操作を1から学ぶ。Illustratorクリエイター能力認定試験対応。	○	
Photoshop基礎	コンピューターのソフトPhotoshopを使用し、基本操作を1から学ぶ。Photoshopクリエイター能力認定試験対応。	○	
色彩	色彩に関する基礎知識を、理論と実践から理解する。色彩士検定対応。	○	
ベーシックデザイン	基本的デザインの構成要素を理解し制作する。	○	
レイアウト	文字やビジュアルの配置・組合せなどを考え、効果的な画面構成が行える様に学ぶ。	○	
イラストレーション	イラストレーションの種類や多様な仕事について学び、幅広い基礎知識を習得する。	○	
専門教科目	概要	1年次	2年次
西洋美術史概論	特にヨーロッパ・ルネッサンス以降の作品の表現技法と内容を分析する。その通史的発展段階によりながら、美術と視空間との関連を理解するとともに作品制作および鑑賞に必要な基本的知識を学ぶ。	○	
絵画空間構成論	近代における一部の抽象表現作品等を除き、絵画史は二次元に三次元のイリュージョンをいかに構成したらよいかを追求してきた。その理論的な側面をコントラスト、スフマト、キュビズムを経て理論化されるに至った〈面〉と〈稜線〉の意識や様々な遠近法などの理解を通して空間表現の可能性を考察する。	○	
デッサンⅡ	自然的確かな表現が、また、深い空間表現が、どうすれば可能であるかの理論的裏付けを理解しつつ、確かなデッサン力を養うことを目指す。さらに色・形・質感などの異なる様々なモチーフを的確に表現できる力を養う。	○	
支持体研究	支持体(基底材)と地塗りの構造を学ぶ。技法に適した支持体作りは絵画の保存性などに大変重要である。	○	
技法研究Ⅰ	パネル、麻布、油性下地、半吸水性下地、吸水性下地などによる違いや、さらにマチエル材を混合した場合などによる違いを、実際に体験することで、支持体が描写に与える影響を理解し、その可能性を追求する。	○	
油彩表現研究Ⅰ	大きな画面の作品を制作するための足掛かりとして、比較的大きなキャンバスである50号(117×91cm)に取り組む。	○	
静物表現研究	静物を通して、そのモチーフがもつ線・形・色彩・量感・質感などの美しさ・存在感を追求しつつ制作する。	○	
風景表現研究	風景は他のテーマ以上に深い空間感が要求される。特にその点を、明度や輪郭のコントラストのあり方、スフマト、グレース技法などによって追求しつつ制作する。	○	
絵画要素構成論	絵画作品の成り立ちを、線、形、色、光、比率、コントラスト、ボリューム、マス、ムーヴマン、視覚力学、遠近法、質感、抽象などの造形要素によってとらえ、美術史において重要な作品を例にとりながら、それらの表現技法と内容を分析する。		○
デッサンⅢ	デッサンⅡでの学びを基に、より技術の向上を目指す。		○
版画表現研究	主に銅版画を中心に制作し、より広い表現方法の習得を目指す。		○
複合画材表現演習	テンペラ、アクリル、油彩、パステル等を複合的に用いる場合の問題点と効果を理解し、さらにコラージュ、アッサンブラージュ、モンターージュ、ステンシル等による表現の可能性についても制作を通して学ぶ。		○
技法研究Ⅱ	主としてルネッサンス期の古典技法を学ぶ。テンペラとの併用技法の可能性やグレース技法、スフマト、フィレンツェ派とヴェネツィア派の違いなどに制作を通して触れる。		○
技法研究Ⅲ	油彩画はバロック期に至り、その最も深い三次元性を獲得したとされるが、それは理論的に、また技術的に、どのような裏付けがあつたのかなのかを過去の優れた作品の再現を試みることで学ぶ。		○
絵画組成概論	フラスコ、テンペラ、油彩、アクリル、水彩、ガッシュ、パステル、日本画等に関して、それぞれの組成を科学的な側面から理解するとともに、それぞれの長所や描画、保存において配慮すべき点、さらにはそれらの混合技法の可能性について概説する。		○
人物表現研究	人物はそのフォルムの確かさや生命感はもちろんのこと、精神性やドラマ性なども特に要求されやすいモチーフである。そうしたことを意識しつつ制作する。		○
油彩表現研究Ⅱ	大きな画面の作品を制作する上では、特にそのテーマ性の深さとともに画面を構成する力が要求される。そうしたことを100号(162×130cm)の制作を通して学ぶとともに、公募展等への出品、入選、受賞を目指す。		○
1年前期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を活かし、前期のまとめとして課題制作する。	○	
1年後期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を活かし、後期のまとめとして課題制作する。	○	
進級制作	1年間のまとめとしての成果を問うべく、各自が専攻色を活かしたテーマにもとづき、長時間かけて制作を行う。	○	
就職講座Ⅱ	デザインの現場での採用試験の傾向、エントリーシート・履歴書の作り方、作品の準備、プレゼンテーションおよび面接試験対策を学ぶ。		○
2年前期課題制作	卒業制作を迎えるにあたり、在学中に学んだ専門知識・技術などの専攻色を十分に活かしたテーマ設定とアイデアを考える。		○
卒業制作	在学中に学んだ専門知識・技術などの専攻色を十分に活かして、自らのテーマを設定し、長期間集中して制作を行う。		○
総履修時間		480	480

※夜間部では1年前期に全専攻が共通教科目としてデザインの基礎を、1年後期から専門教科目を学びます。

※1年間で480単位時間、2年間で960単位時間学びます。 ※美術系大学の通信講座を同時に受け、中学・高校教諭一種免許(美術)を取得する方もあります。

※時勢や企業のニーズにより、内容が変更になることがあります。